



稲穂いなほ

仙南小学校
H29. 5. 1
No. 6



先週「連休のくらし」を配付して『自分の命は自分で守る』を徹底してほしいとお伝えしましたが、秋田県仙北平野土地改良区から「農業用水路が5月上旬の代かき期より、水量が多く流れも非常に速くなる」旨の連絡が入りましたので、お知らせします。声かけの程宜しく願います。

第1回チャレンジテストに向けて

本校では、「学習の基盤となる『読み・書き・計算』の力を高め、個々の基礎・基本の定着を図る」ことをねらいとして、朝に15分間のスキルタイムを行っています。そして、定着状況把握のために漢字・計算チャレンジテストを年8回ずつ実施する予定でいます。因みに、第1回目は5月9日に漢字を、5月24日に計算テストを行います。もちろん、学習の基盤となることですから、全員が満点を取れるように臨んで欲しいものです。

ところで学校で行っているテストは何のために行うのでしょうか。「正誤の数により点数をつけ順位を決める」ためではありません。「授業で学んだことをしっかりと理解できているか」や「以前に理解したことを忘れていないか」等を判断するためのものであり、実施して終わりでは意味がありません。教師にとっても「自分の学習指導が徹底されているか」「指導方法は適切だったのか」等を判断する一つの手段です。

ですから、子どもたちも教師も、テストの点数で一喜一憂して終わりではありません。テストの結果を受けて、その後どんな取り組みをするかが大切です。子どもたちには、同じ間違いを繰り返さないように、繰り返し学習をすることで理解したことを着実に身につけて、チャレンジテスト等で確認してほしいと思います。そのためにも、自分の計画に従って行う家庭学習（ひとり勉強）の大切さを理解し、取り組んでほしいものです。

【以下に「秋田県式家庭学習ノート」の一文を記載しました】

「ひとり勉強」で得たもの……親子それぞれが語る

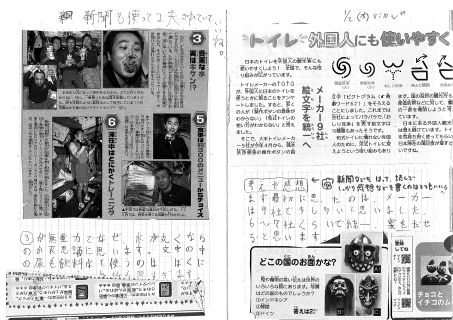
小学生の頃から「ひとり勉強(家庭学習)」を続けているHさん。中学3年生になった今、当時のこと振り返り、何に活かされているのか、お母さんとHさん、それぞれのお話を伺ってみましょう。

絵日記から始まった「ひとり勉強」

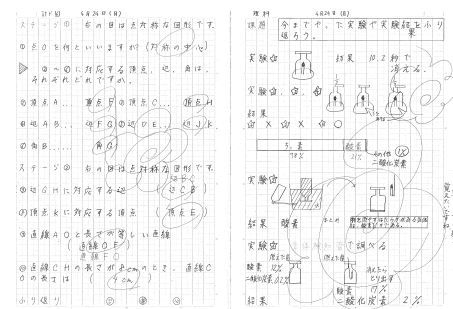
「私は小学2年生の時から『ひとり勉強』略して『ひと勉』を中3の今までずっとやってきました。日によっては宿題としてプリントが配られるときもありましたが、ひと勉はそれとは違い、何を勉強するのかを自分で決めてノートにまとめる学習です。小学校低学年の頃は何を書いたらいいのか分からず、先生宛てに絵日記のようなものを書いてきた記憶があります。それでも、1日の出来事を自分なりにまとめ、習った漢字を使って書くのですから、結構頭は使っていたように思います。」

バリエーション豊かに工夫する楽しみ

「3、4年生になると漢字や計算練習のほかに先生との交換日記のような形ができてきて、先生からの返信コメントが楽しみで毎日の勉強にもいろいろなバリエーションをもたせたのを覚えています。理科ではパソコンで植物を探してみたり、社会は日本地図を書き写して特産物を調べ、いろいろな県に旅行に行った気分になったこともありました。友だちとページ数を競ったのもこの頃ですね。「A子ちゃんがノート5冊目に入ったから私も頑張らなきゃ」と。これは競争意識というより、同じものを共有したいという友だち間での流れと同じ感覚だったと思います。とにかく先生でも友だちでも家族でも誰かが、私のひと勉ノートを見て何か言ってくれ反応してくれるのが面白かったです。小学校の頃の勉強が一番楽しかったかもしれません。」



ひとり勉強例：新聞を読んでの感想(仙南小6年生)



ひとり勉強例：理科の実験の図解(仙南小6年生)

このひと勉と担任の先生のおかげで、今でもノートをとるのは苦痛じゃないし、ひとりで勉強するクセはついたかなと思っています。受験生になって塾での勉強も大変ですが、新聞の社会面を切り抜いて興味を持った記事の要約や感想をノートにまとめるようなひと勉を、私は今も続けています」

母親談

「ひと勉は友だち同士の間でも早くから習慣づけられていましたので、小学校低学年の頃から、学校から帰ると自主的にひと勉を済ませて遊びに行っていました。『今日ひと勉何やってきた?』と遊びながらも会話にのぼるくらい、ひと勉は子どもたちにとってごく普通の日常生活のひとコマのようでした。これは小学校低学年の頃、『絵でも何でもいいので、とにかく1日1ページ、ノートに向かわせてください』と勉強のクセ付けをしてくれた担任の先生のおかげだとほんとうに感謝しています。1日10分だった勉強時間が学年が上がるにつれ30分になり高学年では1時間以上へと、忍耐力もついてきました。それに、中学の先生が言っていたのですが、ひと勉の習慣のある子とない子では受験期にはっきりと差が出てくるそうです。与えられた課題をこなすだけではなく、一歩踏み込んで自分で考える力を備える必要があります。高校受験では自学力も大きな鍵となるようですから。

中学3年生になり勉強もどんどん難しくなって部活も忙しいのですが、うちの子は、ひとりで机に向かうクセ付けだけは小学生の時にしっかり身についたものとありがたく思っています。」

東大生に聞く 秋田県式家庭学習ノートの効果

家庭学習ノートで勉強を習慣づける

自分自身、小学校低学年の頃は「宿題があれば、やります」という程度で、よく友だちとゲームや草サッカーをして遊んでいました。特にゲームが大好きで、それは今でも変わりません。ただ、当時自分が通っていた小学校でも、「家庭学習ノート」はありました。このノートは特に決まりがなく、自分が好きなことを書いて提出すればよいので、計算ドリルや漢字練習をやるが多かったですね。ときには、日記だけで済ませることもありました。とにかく、毎日何かをやって出せばOKというのは、少なからずノートを開く習慣づけにはなっていたと思います。

小学校低学年から3、4年生くらいまでは、全部自分で計画を立てて勉強できる子はほとんどいないでしょう。その反面素直なので、「これやりましょうね」って言われたらたいていの子が、「はい、やります」って従うパターンが多い。その習性を利用して、とにかく家庭学習を日課にしまうと、あとあと楽だと思えます。そういう意味では、とりあえず、「ノートを開いて、書く」という行為自体がその後の勉強習慣につながっていくはずで。

小学生時代の計算と漢字練習で基礎をしっかり

当たり前のことなのですが、勉強は毎日の積み重ねがとても重要です。小学生のうちは、授業を聞いているだけでもついていけるかもしれませんが、中学校、高校と進むにつれてそうはいかなくなってきます。どこかでつまずくと、その先にはなかなか進めなくなってしまいます。

特に数学はそうです。数学が苦手だという人の多くは、計算スピードが遅かったり、うっかりミスが多い。これは塾の講師や家庭教師を経験して分かったことなのですが、計算能力を見るとだいたいのレベルが分かります。ですから、数学が苦手だと訴える生徒にはまず計算ドリルをやらせてみます。計算問題をスラスラ解ける生徒は、あとあと必ず成績が伸びます。逆に、計算能力が低いと、なかなか克服できませんね。そういう生徒でも、ほんとうに分らないというレベルまで戻って、ひたすら計算問題を解いて実力がついてくると伸びるんです。勉強とスポーツのトレーニングには同様の傾向があります。元々の得意、不得意は確かにありますが、ほとんどの人は練習次第で何とかなると思えます。自分の生徒たちを見ていると、数学の出来、不出来が、勉強が好きか嫌いかという意識と密接に結びついていて、それは計算能力の差が影響しているようです。小学生のうちから家庭学習で計算ドリルを繰り返すというのは、数字に親しみ計算能力を鍛えるのに有効です。数学の基礎体力づくりとしては、とても有意義だと思います。

国語は、センスを問われる科目なのですが、小学生レベルだと練習次第でそのセンスに磨きをかけることも十分可能です。漢字の読み書きがどれだけできるか、言葉の意味をどれだけ知っているかが成績を左右するわけですが、それは単純に、練習をやったかやらないかの差なんですよ。家庭学習でもノートに繰り返し漢字を書くとか、分からない言葉や新しく出会った言葉は辞書を引いて意味を調べる、さらにはそれをノートに書き写すといった作業が必ず役立ちます。本を読んで、その内容をまとめると言うのも効果的です。漢字の書き取りや意味調べなどは、ほんとに地味な作業ですが、このクセがついてないと高学年、中学校、高校と学年が進むに従って大きな差が生じてきます。

目的を持って調べる、手を動かして書くなどの作業は、国語に限らずすべての科目に通じる基本中の基本です。これが小学生のうちに身につけていると、成長するにつれて楽になると思えます。その逆は、大変です。大きくなってから身につけようと思っても「面倒くさい」と言う気持ちが先に立ってしまうと、なかなか実践できません。また、語彙の多い少ないは、読解力に影響してきます。算数の文章問題も言葉で問われるわけですから、「問題の意味が分からない」という現象を防ぐためにも、言葉の意味を数多く知ることはとても重要です。